

## 5 畜 産

項 目	作 業 内 容
(1)夏作の播種	<p>(今月の作業のポイント)</p> <p>夏作の播種 冬作の収穫 家畜管理</p> <p>5月から飼料作物の播種が本格的に始まるため、週間天気予報を参考に、計画的な作業を心がけることが重要である。</p> <p>(1) トウモロコシ トウモロコシは、平均気温が10 以上になる4月から8月にかけて播種できる。5月の播種は登熟が良くなり、高品質多収が見込めるため、前作物の栽培状況や飼料畑の条件等を考慮して計画的に播種する。 密植すると倒伏や病害虫の影響を受けやすく、低品質・減収になりやすい。また、浅播きすると鳥害・干害を受けやすく、深播きは発芽不良になりやすいので、圃場に合わせる。(品種にもよるが、通常、種子の大きさの2～3倍の深さ。)</p> <p>(2) ソルガム ソルガムは種子が小さいので、なるべく丁寧に整地を行う。1～2cmの覆土は発芽を良好にするが、覆土は鎮圧を十分にすれば必要ない。</p> <p>(3) 暖地型牧草(ローズグラス、イタリアンミレット等) 肉用牛農家等で刈り取り適期の幅が広く乾草用の飼料作物として適している。ロールベール利用には厚播して稈を細くする。湿害の影響を受けやすい作物なので、特に転作田においては排水管理に充分注意する必要がある。</p>
(2)冬作の収穫	<p>四国地方1か月予報によると、5月の天気は数日の周期で変わるが、晴れの日が多い見込みである。収穫には好都合であるが、天候を考慮して計画的に刈り取りやサイレージ調製作業、乾草づくりに取り組む。</p> <p>イタリアンライグラスは、穂ばらみ期から出穂期にかけて可消化養分量が多く、収穫の適期である。普通栽培の出穂期は、おおむね早生種で4月下旬、晩生種で5月上旬である。気温が高くなってくるので、晩生種では生育が早くなることを想定しておく必要がある。また、早生種を中心に再生草の収穫を行う場合は、予め1番草の収穫を4月上旬までに実施することが望ましい。</p>

<p>(3) 家畜管理</p>	<p>家畜にとって快適な季節になるため、防寒対策で設置した壁・カーテン等を取り除き通風を確保し、畜舎及び農場内の整理・整頓をする。なお、各種病原菌の増殖が盛んとなる梅雨時期の前に、畜舎消毒を行い下記の衛生対策強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>踏み込み消毒槽の設置及び管理徹底</li><li>外来者の農場入場制限</li><li>石灰散布の実施</li><li>敷料の細やかな交換</li></ul>
-----------------	--